

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>28. 呼気と吸気の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率66%（完全正答）である。呼気(A)は85%とよく理解させているが、気体名がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 呼気と吸気について気体の質的な違いと、気体の名称をよく理解させておく必要がある。
<p>領域A（生物とその環境）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 花のつくり、森林の内外の様子については、よく理解されているが、受粉と結実の関係については、理解が十分ではない。 ◦ 血液の働き、筋肉の働き、だ液の働き、呼吸の働きがよく理解されていない。 人体各部の個々の働きについての理解を図るとともに、各器官相互の関係を、総合的にとらえて指導する必要がある。できるかぎり観察・実験を取り入れ、さらに視聴覚教具、模型などの活用も図りたい。 	
<p>領域B（物質とエネルギー）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「物を温めたとき、体積は変わっても重さは変わらない」という大切な概念が把握されていない。 実験のねらいを明確にし、ねらいに即した実験方法を工夫するなどして理解を深めたい。 ◦ 水溶液の性質を確かめる問題の正答率が低い。機会をとらえて、既習事項を生かした総合的な思考判断力を育てる指導が望まれる。 ◦ 支点が外にあるてこおよび輪軸における、支点・力点・作用点の関係などについての理解が不十分である。実験をもとにした思考を重視して理解を深めさせたい。 ◦ 内炎と外炎を混同しているなど、ろうそくの炎のつくりがよく理解されていない。実験方法を工夫して、とにかく実際に実験観察させることが大切である。 	
<p>領域C（地球と宇宙）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「土や砂の水中でのおしずみ方」の問題で、砂より粘土の方が速く沈降するという誤答が多い。モデル実験を通して、粒子の大きさによる沈降の速さの違いを確かめさせる必要がある。 ◦ 季節による太陽の高さの変化は、自然界にいろいろな影響を及ぼすことを、総合的にとらえさせることが大切であり、それらの観測は、観測のための観測に終わらないよう注意したい。 ◦ 「太陽の高さと気温・地温の関係について」の問題で、正答率が低い理由のひとつに、グラフの見方の不完全さをあげることができる。グラフの見方に習熟できるよう、測定結果を実際にグラフ化する学習を取り入れるなど、指導の工夫が大切である。 	